

国内における損害保険会社の社会課題解決への貢献

～気候変動を中心として～

損害保険ジャパン株式会社

丸木 崇秀

1. 損害保険会社と社会課題解決

近年、企業の存在意義（パーパス）に基づく事業活動がとみに求められており、損害保険会社も例外ではない。元々損害保険事業は、大規模災害発生後の保険金支払等に象徴されるように公共性が高く社会的役割が大きい。しかし、SDGsをはじめとして昨今求められている企業の社会課題解決への貢献は、従来に増したスピードとイノベーション、その結果としてのトランスフォーメーションの要素が求められている。この背景を踏まえ、損害保険会社が社会課題解決のために発揮すべき役割について取組み事例を踏まえて考察し、課題と方向性を探りたい。

2. 現状と検討課題

(1) SDGs 経営と損害保険

SDGs で示されたグローバルな社会課題のメニューは、営利と非営利、官と民など、様々なセクターを越えた協業による画期的なソリューションの探索、また 2030 年という限られたタイムフレームの中でのスピード感を持った取組みを必要としている。その中で企業は、創造性とイノベーションを発揮して主体的な役割を発揮することが求められており、企業の経営戦略に社会課題解決を組み込み、統合していくことの必要性が高まっている。

損害保険会社の事業は、SDGs の 17 つの目標のほぼ全てに関連しており、マテリアリティも幅広くなる傾向がある。また、保険事業が本来持つ公共性の高さが、従来の社会的役割の発揮と SDGs への取組みの違いを見出しにくくしている側面がある。しかし、SDGs で求められているのは、社会のありようを変えるレベルの解決策・イノベーションであり、それを生み出すためのコレクティブな協働である。その意味で、損害保険会社は従来の枠を越えて社外に目を向け、ステークホルダーとの共創を積極的に図っていくと同時に、保険という閉じた枠組みに止まらない思考のジャンプを育んでいくことが重要といえる。

(2) 気候変動と損害保険会社の役割

気候変動は、最も重要なグローバル課題のひとつであり、その喫緊性、インパクト、また他の課題との連関性などから、取組みの優先順位が高い課題である。気候変動への対策は適応と緩和の 2 つに分かれるが、損害保険事業はその両方に関連が深い。まず適応の面では、気候変動により激甚化する災害に対して、保険というリスク移転の手段を提供するという本来の役割がある。また、災害の発生や被害の予測、被害の最小化（防災・減災）に関するノウハウ提供等を通じて、ニューノーマルと言える状態に対し、社会のレジリエンスを高

めることに貢献できる。一方、緩和については、脱炭素・カーボンニュートラルの取組みを下支えし、支援する役割を担っている。既に再生エネルギーなどの新産業部門に対する保険商品の開発を通じて、産業イノベーションを後押しする取組みが始まっているが、TCFDのような気候リスクの開示ルールへの対応や、NZIAと呼ばれる業界主導のイニシアチブにおける自主的な取組みが始まっており、気候変動対策に関して、より主導的な役割を發揮していくことが期待されている。

日本では、カーボンニュートラルがことさら強調される傾向があると言われるが、気候変動の適応と緩和を統合的に捉えてソリューションを追求していくことが必要であり、両方の領域につながりを持つ損害保険会社として、そうした気運を醸成することに貢献することができると思う。

（3）損害保険会社社内の人材育成

損害保険会社の社内においては、社会課題にさらに強くコミットし、社会価値の創造に貢献できる人材の育成の仕組みづくりが始まっている。社会価値を創出するためには、社外とつながるネットワーク力、新たな価値を構想し実現するデザイン力、そして自らと組織のパーパスにもとづいて粘り強く行動するパッションの力が欠かせない。社内で人づくりを進めながら、その人材育成の仕組みを社外にオープンにする取組みも生まれている。

（4）地域における取組み事例

損害保険会社の取組みを考える際に、地域という視点は欠かせない。自社のリソース・強みを活かした社会課題解決への貢献を考えると、まず、大規模災害発生時に災害被害の確認から保険金支払いまでを迅速に行うための大規模なオペレーションに象徴されるような、保険機能の發揮がある。また全国で保険サービスを提供するための拠点や代理店が持つ、ネットワークと人的資源を活用し、地域に根差した取組みを行うことがカギになると考える。

地域における事例としては、災害に対する備えの重要性や知識について認識を浸透させるための防災教育や、平時から災害時の対応について議論する仕組みと場づくり、またデジタル技術を活用した災害の検知や予測、さらに復旧を早めるための自治体や市民社会組織等との協業などの取組みが進められている。

（5）課題認識と方向性

損害保険会社にとっての課題は、従来の保険機能の發揮に止まらず、地域の中で会社や業界の外に目を向けて行動し続けること、マルチセクターのコレクティブな協働を生むためのネットワークを提供できる存在として、新たな役割を担っていくことであると思う。そのためには、損害保険業界の内外において、損害保険会社の強みの活用や、社会課題解決への具体的な貢献方法について、対話を深めることが必要である。